

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原 浩 介	職名	講師	学位	博士 (社会福祉学)
----	--------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	家族福祉、子ども福祉、ファミリーソーシャルワーク、 ソーシャルワーク

研 究 課 題
社会福祉学に関して、地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、 精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上でのみえて くる語りを対象として、主に質的研究・量的研究を用いて考察する。家族が抱える生活課題の現状及び傾向、 家族支援における視点、援助技術の生成などについて研究している。

担 当 授 業 科 目
精神保健福祉に関する制度とサービス (前期) 地域福祉論 (通年) 精神障害者の生活支援システム (後期) 相談援助演習 I (後期) 精神保健福祉援助実習指導 I (通年) 精神保健福祉援助実習指導 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【精神保健福祉に関する制度とサービス】</p> <p>メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【地域福祉論】</p> <p>地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神障害者の生活支援システム】</p> <p>精神障害者の生活支援の意義と特徴およびそれに関する制度と施策、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導 I】</p> <p>福祉学科3年生を対象にした実習科目。実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう工夫した。</p>

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】

福祉学科4年生を対象にした実習科目。3年次の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指しているよう、4年次の実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	九州地域部会事務局員（2018年6月～現在に至る）	2014年6月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員（2019年6月～現在に至る）	2019年6月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員（2014年7月～現在に至る）	2014年7月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会	正会員（2012年5月～現在に至る）	2012年5月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 「要保護児童対策地域協議会支援者の専門性と限界性を越えた対話活動に基づく家族支援の在り方に関する研究-支援者が捉える課題と創造的な対話活動の展開についての一考察-」	単 著	2020年3月	熊本学園大学社会関係学会・『社会関係研究』第25巻・第2号・1-25頁	本論文は、要保護児童対策地域協議会(以下「要対協」と記載)の支援者27人を対象に、(1)家族支援の課題整理、(2)支援者同士の創造的な対話活動について明らかにすることを目的に質問紙調査をした。その結果、支援者が捉える家族支援の課題は、「対話を創る場」「多角的な情報の統合」等を捉えた。創造的な対話活動は、【共有】【明確化】【探求】【統合】【創造】【具体化】を捉えた。要対協の対話活動は【創造】の過程が「要対協の機能及び役割」の〈役割分担〉する上で重要になることを示した。(※査読有)
(翻訳)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 「要保護児童対策地域協議会による家族支援の対話活動の在り方に関する研究 ― A 地域における家族支援の対話活動の構成過程についての一考察 ―」	単 独	2019年 6月	日本社会福祉学会 九州部会 第60回研究大会, 口頭発表(会場: 北九州市立大学)	要保護児童対策地域協議会の対話活動に関する報告を行った。主な目的は、担当者の家族支援における課題と対話活動の構成過程について明らかにすることである。個別ケース会議に参加する担当者 27 人を対象にインタビュー調査を実施した結果、23 人の回答を得た(回収率 85.2%)。その結果、「対話を創る場」等の課題が捉えられ、【共有】【明確化】【探求】【統合】【創造】【具体化】といった対話活動における構成過程が特徴として捉えられた。
				教育研究業績 総数 (2020年4月17日現在) 著 書 0(内訳 単0, 共0) 学術論文 1(内訳 単1, 共0) 翻 訳 0(内訳 単0, 共0) 学会発表 1(内訳 単1, 共0)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者( )内は学外者	交付決定額 (単位:円)
地域包括ケアシステム推進下における介護系NPOの役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、梶原浩介	4,420,000円

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興会	2,210,000円	

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	調査研究班	2014年11月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014年5月～現在に至る
福岡県精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2019年12月～現在に至る
北九州市民カレッジ企画運営委員会	企画運営委員	2019年12月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

宗教委員会 委員 2019年4月 ～ 現在に至る ・副委員長 2020年4月 ～ 現在に至る 学生アドバイザー 2019年4月 ～ 現在に至る
---